

幼稚園生活における人権教育

Human-rights education in kindergarten

小林 孝子*

(平成29年1月18日受理)

要約

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

このため、教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。そこで、幼稚園の生活において幼児期は、自然な流れの中で直接的・具体的な体験を通して、人権教育が行われるものとする。ここでは、保育指導案と幼稚園での子どもたちの遊びや生活の事例を通して幼稚園生活における人権教育を明らかにした。

キーワード：大切な生命、思いやり、人権教育

keywords：Precious life, Compassion, Human-rights education

1. はじめに

人権とは、「人間が人間として幸せに生きていくための権利」と言われており、私たち一人一人の生命や自由・平等を保護し、日常生活を支えている大切な権利であり、国籍・性別・出身・経歴等を問わず、地球上のあらゆる人に普遍的に保障されている基本的な権利である。

人は社会の中で、多くの人々とのつながりや相互依存によって生きており、全ての人々が平和で豊かな社会を享有するためには、一人一人の尊厳と基本的人権が尊重されることが必要である。(典拠：加古川市人権教育及び人権啓発に関する基本計画)

「幼稚園で人権教育って何するの?」と聞かれることが多い。就学前における人権教育では、人権感覚の源になる自尊感情を育むために、幼児自身が大切にされていることを体感できるような関わりを積み重ねていくことが大切である。また、生命を大切に作る心を育むために、身近な動植物や自然と触れ合う体験を増やすことは、人権意識

を身に付ける基礎になると考える。そこで、幼稚園での人権教育が、毎日の保育であり、教師が人権意識をもって子ども達と関わらなければ見過ごしてしまうことが多いことを保育指導案や遊び等の事例から検証していきたい。

各幼稚園では、幼児を取り巻く環境(幼稚園、家庭、地域)や幼児の実態から、めざす幼児像を掲げる。

目指す幼児像について、全てが人権教育に関わるが、特に大きくかかってくるのが、「優しく思いやりのある子」である。保護者の願いとしても、一番多くあげられている。

今回の論文では、幼稚園教育における人権教育を明らかにするために教育目標から目指す幼児像「優しく思いやりのある子」について、幼稚園生活の中で、人権教育の視点から見た幼稚園教育を取り出して考えてみる。

(*こばやしたかこ 保育科講師 幼児教育学)

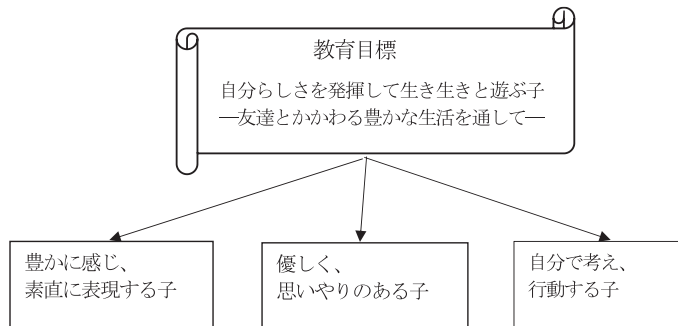


図1 「教育目標と目指す幼児像」(加古川市立平岡南幼稚園 研究紀要, 1996, P.3より)

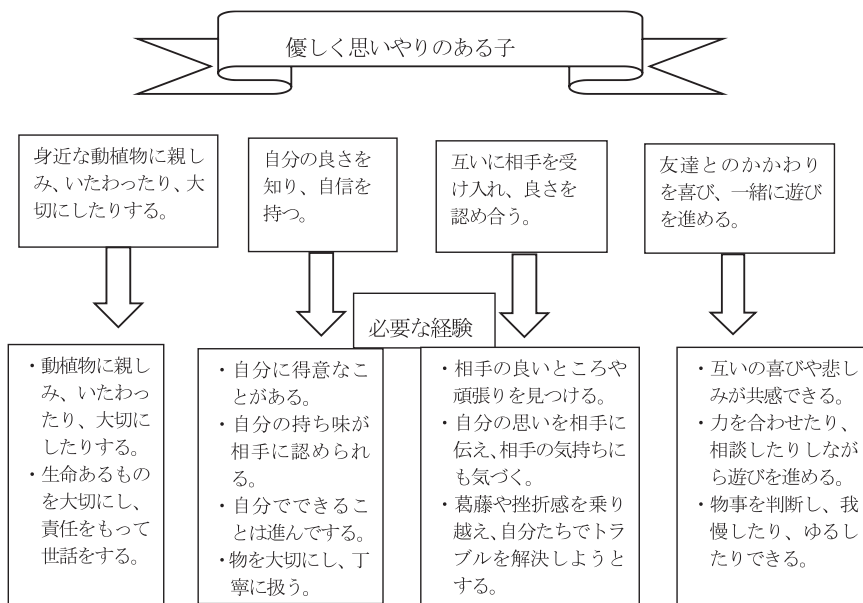


図2 「優しく、思いやりのある子」の具体的な内容 (加古川市立平岡南幼稚園 研究紀要, 1996, P.3より)

2. 方法

(1) 人権教育の視点から見た保育と指導案の検討

日常の保育の中で、人権感覚を研ぎ澄ませると見えてくるものがたくさんあり、意識することで、認め言葉や援助の内容がより具体的になる。そうすることで、子どもたちも自分の良さや友達の良さがわかったり、友達の思いに気づいたりできる。まず、平成28年10月26日の保育や指導案(資料)の中に人権意識を高める内容や援助が表れているか、検証する。

(2) 保育のエピソード分析

幼児期は、人とのかかわりの中で他者理解を深め、自己肯定感を培っていく重要な時期である。少子化、情報化等で直接体験が減少している中、子どもたちの心の育ちを大切にしてきた。

遊びを通して、思いの違いから発生するいざこざや葛藤体験を重視し、一人一人の心のゆれにしっかり向き合い、必要な援助をすることが心の育ちを促すことになると考えてきた。「優しく思いやりのある子」に育てるために必要な経験を、望ましい環境と援助が工夫されているか、保育の

エピソードから検証する。

事例1～4は、筆者が5歳児の担任をしていた時の保育エピソードについてまとめたものである。

3. 人権教育の視点から見た保育と指導案の検討

(1) 人権教育の視点から見た保育と指導案の検討

上郡町立上郡幼稚園人権研修会において実践された藤木教諭の保育指導案(資料1)に記述された内容〔表1〕「幼児の姿」の中の人権に関する記述(表1～表4)について検討する。

1) 「幼児の姿」についての検討

表1 「幼児の姿」の中の人権に関する記述

運動会を経験した幼児達は友達と一緒に頑張ることや、自分達で考えて決めてできあがったことに満足し、やりきったという達成感を味わうことができた。友達に認められ、みんなに応援してもらった喜びを実感し、より成長している様子がうかがえる。運動会後でも、リズムジャンプに自信をもって取り組み、友達を誘う声や活動する姿を見てもとてもたくましく自信をもって行動している様子がわかる。また、遊びの中で生じるトラブルもきちんと言葉で伝え、自分達で解決して遊びを続けていく姿が見られるようになった。集団行動のとりにくいA児は、負けても泣かずに気持ちを切り替え、最後まで頑張ろうとする意欲が見られるようになってきた。友達もそんなA児の様子がわかり、「A君「嫌だ」言わなかったな」「A君すごくがんばったな」とA児を認める言葉が聞かれた。そういう毎日の繰り返しや友達の認めでA児にも変化が見られるようになってきている。

かわいいどんぐりやきれいな葉っぱ、小枝など幼稚園の周りには子どもの興味をかき立てる素材が沢山ある。また、それを使って幼児なりに色々と工夫することができる。身近な素材を使って作ることで子ども達は自然物との組み合わせやその素材ならではの特性を生かし、工夫して表現することができる。自分なりに工夫している幼児を認めることでクラス全体に広め、「Bちゃんみたいのが作ってみたい」という思いを引き出すことができる。友達と相談しながら作ったり、やり方を教えてもらったり、また自分で考えたりやってみたりすることで自分の思いを伸び伸びと表現でき、友達と遊びを共有していけると考える。

幼児達が大好きな秋の自然物や身の回りの素材を上

手く組み合わせながら自分の思いを伸び伸びと表現できるようにしていきたい。また、友達が作っている様子を見たり、工夫しているところを教えてもらったりすることで友達とのかかわりも大切に、認めていくことで集団としての高まりを育てていきたい。身近な自然に思いを寄せて作ることで地域や自然の大切さを感じながら制作していく喜びを味わわせ丁寧な作っていくようにしていきたい。

表1のアンダーラインは、幼児の姿の中にある人権に関する記述について、筆者がアンダーラインを引いたものである。友達に自分の良さを認められ、自信がついてきた様子や、友達の頑張っている姿を見て、刺激を受け、友達との遊びがより楽しくなっている幼児の様子が感じられる。

2) 「保育のねらいと内容」についての検討

表2 指導案に書かれている「保育のねらいと内容」

- 自然物や身近な素材を使って友達と一緒に山の木や山を作ることを楽しむ。
- ・自然物や素材の特性を生かし、組み合わせながら木や山の様子を作る。
- ・材料や素材を大切に扱い、友達と思いを共有しながら楽しんで作る。

上記の太字アンダーラインで示している部分の中で、特に「材料や素材を大切に扱い」「友達と思いを共有しながら」の部分で、物を大切にすることができるといことは、人も大切にすることにつながることから、教師が人権教育を意識して目標にあげていることが分かる。

3) 「遊びの展開」についての検討

表3 指導案に書かれている「遊びの展開」

<p>※環境構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味をもって見られるように秋の自然に関する「科学絵本」を目につきやすい場所に掲示する。 <p>※教師の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然物や素材の扱い方に注意し、大切なものであるから大事に使おうという気持ちを持たせる。 ○A児が頑張っているところをしっかりと認め、具体的に分かりやすく褒めることでより意欲が継続するように配慮する。 ○工夫している幼児を認め、みんなに紹介することで意欲を持たせ、他児への刺激になるようにしていく。 ○できあがった作品は机の上に並べ、みんなに見えるようにする。 ○自然物等の材料を丁寧に扱っている姿を見守り、認め、全体に広める。
--

上記の太字アンダーラインで示している中で、特に、大切なものであるから大事に使おうという気持ちを持たせる。A児が頑張っているところをしっかりと認め、具体的に分かりやすく褒める自然物等の材料を丁寧に扱っている姿を見守り、認め、全体に広める。という部分で物を大切に、一人一人を大切に考えて、人権教育の視点から教師の援助を配慮できるように意識していることが分かる。

4) 「幼児の活動」についての検討

表4 指導案に書かれている「幼児の活動」

<ul style="list-style-type: none"> ○木の枝やいろいろな木の実、色づいた葉っぱ、段ボールの切れ端等を使って台紙に乗せて遊んでみる。 ○友達の工夫を見て、良いところを認め、自分の作品に活かしている。 ○アイデアが浮かばない時は、科学絵本を見たり、友達の様子を見たりしている。
--

上記の「幼児の活動」は「予想される幼児の活動」であるが、教師が人権教育の視点で環境構成や教師の援助を工夫した結果、実際に10月26日の保育の中で幼児が物を大切に、友達の良さに気づいて、お互いに認め合う姿として表れていたこ

とを確認することができた。

(2) 人権教育の視点での考察

1) 指導案について

クラス担任が人権教育の視点で捉えた場面や内容が書かれていて幼児の活動の中に育ちや教師の願いが良く出ている。特に

友達に認められ、みんなに応援してもらった喜びを実感し、より成長している様子が見える。

遊びの中で生じるトラブルもきちんと言葉で伝え、自分達で解決して遊びを続けていく姿が見られるようになった。

A児を認める言葉が聞かれた。そういう毎日の繰り返しや友達の認めでA児にも変化が見られるようになってきている。

友達が作っている様子を見たり、工夫しているところを教えてもらったりすることで友達とのかわりも大切にし、認めていくことで集団としての高まりを育てていきたい。身近な自然に思いを寄せて作ることで地域や自然の大切さを感じながら制作していく喜びを味わわせ丁寧に作っていくようにしていきたい。の部分に顕著に表れている。

この日の保育の中でも、友達の作品を見て、「わー！○○君のすごーい！ブランコがすごーい！」と子どもたちが素直に友達のアイデアの良さを認め、自分もやってみようという意欲を示していた姿が見られ、友達の良さを認め合う良いかわりが見られた。理想の指導案として書かれたものではなく常に一人一人の子どもたちの姿を思い浮かべながら詳しい細案が立てられていると考えられる。

2) 保育について

子どもたちが落ち着いて長時間にわたり、根気強く作品作りに取り組む姿がみられた。グループでテーブルを囲み、材料や用具を共有しながら、楽しんで作っていた。お互いに「それ、僕もやりたい！」と友達の工夫を見て良いところを素直に認め、自分もやってみたくて意欲が出て、実際に取り組んでみる。そして、先生に「○○ちゃんの～見て、僕もこんなもの作ってみた。」と見せにき

ていた。

グループの友達だけでなく他のグループの友達の作品を見て、「すごいね。」と素直にほめ、感動したことを自分もやってみようと意欲的に取り組んでいる姿が見られ、友達関係の良さが感じられた。外部から来た私や他園の先生方に気を散らすことなく、集中して長時間工夫しながら遊んでいた。

トラブルが多く、なかなか落ち着けなかったクラスと聞いていたが、毎日の保育の中で、「友達の良いところを認め、良いところは自分も取り入れて、より良いものにしよう。」という考えを幼児への教師の言葉かけの中に自然に発信しておられるのが分かった。そして、友達とのかかわりに関する援助の積み重ねや担任の温かい人間性に触れることで子どもたちの姿が変わってきたと思われる。

4. 保育のエピソード分析

(1) 事例1 思いやりの心を育む

事例1 「タンポポ組のリコちゃん」

私が担任していた時の、一番ウサギが好きなクラスである。これは、ウサギのリコちゃんの結婚式をしています。ウサギも安心して子どもたちに体をゆだね、仰向いて寝る、子どもたちがタオルをかけてやるという不思議な関係だった。この時、「タンポポ組のリコちゃん」という視聴覚の作品を作ったが、ご指導いただいた当時教育研究所の指導主事の先生が、「ウサギがこんな状態(仰向けに寝るなんてありえない!）」とびっくりされた。子どもたちは、本当にウサギと友達みたいに遊んでいて、ウサギが足にけがをしたとき、「ケガしてるから、ニンジンですって、ニンジンジュースを作ってあげる。」と嬉しそうに教えてくれた。「一緒に遊ぼう。」とウサギを抱っこして滑り台を滑ったり、暑い日は、お茶をあげたりしていた。ある時、ウサギがキー！と鳴いた。ウサギは普通鳴かないので、びっくりしていたら、子どもたちが「先生!

リコちゃんが怒った!」と言ってきた。「どうしたの?」と言うと「お茶をあげた…。」「どんなお茶?」と言うと「ウーロン茶…。」「苦かったのかなあ。」と反省していた。白いウサギがお利口のリコちゃんである。リコちゃんを主人公に職員で映像を取り、子ども達と一緒にお話も作った。写真①②は、リコちゃんの結婚式で、友達のウサギも参加している。自由遊びの時に真ん中の二人がリードしてこの遊びになった。



写真① リコちゃんの結婚式



写真② 花束贈呈

ウサギにとっては迷惑な話であるが、なされるがままにしていたというのは、本当に安心していただろう。子どもたちも、ウサギが喜んでいて信じているので、その優しさや思いやりの気持ちはウサギにも伝わっていると感じた。そうでなければ、いつまでも心地よさそうに抱かれていた

り、仰向いて寝そべったりして子どもたちの遊びに付き合うはずがない。子どもたちにとってウサギは大切な友達であり、思いやりの気持ちをもって接することで、ウサギも子どもたちの思いを感じ取っていたのだと思う。

(2) 事例2 命の大切さを学ぶ

事例2 「ウサギのお墓」

ある雨上がりの朝だった。子どもが悲しそうな表情でウサギの顔のシルエットらしきものをもってきた。「先生、ウサギの顔が落ちてた…。」たぶん野犬にやられたと思いますが、小学校のウサギが幼稚園の園庭で死んでいたのだ。頭だけで胴体はなく、あまりにかわいそうな姿に教師も子どもたちも絶句してしまった。でも悲惨な姿の…顔だけで泥だらけのウサギの顔を大事そうに手のひらに載せてくれている友達を子どもたちは本当に尊敬のまなざしで、「すごい…Tちゃん、すごい！優しいなあ。」誰も怖くて気持ち悪くて抱けなかったのだろう。だれも「気持ち悪い。」と言葉には出ませんでした。「Tちゃんが頑張って大事そうに抱いてくれているのに、そんな可哀なこと言っちゃいけない…。」と思ったのだと思う。クラスのみんなの思いは同じ、「Tちゃんは、優しさを通り越したヒーロー」だった。それから、クラスのみんなでお墓の穴を掘ったり、草花を見つけきたり、柔らかい草のベッドを作ったり、「クロちゃんのお墓」と書いたり…。自分のできることを一生懸命頑張った。みんなに認められたTちゃんも自分の良さに気づき、自分の感じ方や考え方を肯定することができ、自分を誇りに思ったことであろう。クラスの子どもたちも改めてTちゃんの良さに気づき、Tちゃんの優しさに触れ、刺激をもらい、自分のできることはないかと自分で考え、行動できたと思う。大変ショックな出来事ではあったが、命の大切さや思いやりの心を育てることができた貴重な体験だった。



写真③ 爪が強いね



写真④ 歩いたら、くすぐりたいよ



写真⑤ もうすぐ蝶になるよ

幼稚園ではダンゴムシやカタツムリやザリガニなどを飼育している。赤ちゃんが産まれると本当に可愛くて、感動的である。この可愛い赤ちゃんを何とか育てたい！と飼育の仕方を一生懸命調べている姿が見られる。図鑑で飼育の仕方をいろいろ調べてはいたが、良かれと思い、水を入れすぎたり、餌を入れすぎたりして、いっぱい失敗して、死なせてしまったこともある。生き物には申し訳ないが、自分の命を懸けて子どもたちに命の大切さや思いやりの心を教えてくれたと感謝している。実際に生き物とふれあい、飼育する体験をして見て初めて命の大切さを理解できると考える。

(3) 事例3 共に育つ友達とのかかわり

事例3 「特別な支援を要するSちゃんと共に」

子ども同士の遊びの中で、いろいろなトラブルや葛藤があり、思いを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしている。子ども同士で解決できることが目標だが、できない場合は教師が仲介して、思いを伝えあい、お互いの気持ちを考え合う機会を作っている。

超未熟児で生まれ、発達遅滞のSちゃんは、言葉もあまり出ないし、できないこともいっぱいあり、細くて力が入らないことが多い。友達と一緒に走れば、風圧で飛ばされそうな弱々しい子どもである。クラスの友達は、Sちゃんが自分でできることとできないことをよく理解していて、滑舌の悪い、伝わりにくい言葉も一生懸命理解しようとしてくれた。

Sちゃんが年長児になり、運動会でリレーをすることになった。Sちゃんは、負けず嫌いで、一生懸命走るが、次の子にバトンを渡すまでに他のチームにごぼう抜きされてしまうのである。「Sちゃん、僕らが抜き返してあげるから…」と言ってもSちゃんは、首を横に振って、嬉しそうにしない。自分が抜かれることが嫌な様子だった。同じチームの友達はいろいろ考えた末、走るのが得意な子を3人Sちゃんの前に走らせて、他のチームを圧倒的に離した。独走態勢に入ったところで、Sちゃんにバトンタッチするという方法を考えた。

運動会当日、見事にSちゃんは、他の3チームの誰にも抜かれることなく次の友達にバトンを渡すことができた。Sちゃんも大喜びで、お母さんの所へ走っていき「1等!」と笑顔で報告できた。



写真⑥ 1等でバトンタッチするからね

Sちゃんは、自分が走っている間に他のチームから抜かれることが悔しく、自分のチームメート

が抜き返してくれても嬉しそうにできなかった。そのことを察して同じチームの友達がいろいろ考えてくれていることを興味深く見ていた。

リレーの遊びの中で、Sちゃんは言葉にはできないけれど、クラスの友達が自分のために一生懸命に考えてくれていることを実感したと考えられる。

Sちゃんの希望を叶えてあげたいという友達の思いが伝わり、Sちゃんの満面の笑みを見ることができて、みんなで目標を達成することができた。クラスメートと保護者と担任が喜びを共有できたことは、何よりも嬉しく、「自他を大切にできる心」を育てることができたと感じた一日であった。

幼稚園生活の中で、自尊感情を育むためには、子ども自身が大切にされているということを体験できるような教師の援助や友達とのかかわりを積み重ねていくことが大切であると考えられる。

(4) 事例4 自分の思いを相手に伝え、相手の思いにも気付く

事例4 「相手の気持ちを考えよう」

ある時、遊戯室で並んでいるとき女児が悲しそうな困った顔をして私を見ている。「どうしたの?」と声をかけると「S君が、パンツの中見せてって言った。」「嫌だったね。大事なところだから絶対見せなくて良いし、嫌だとはっきり言おうね。」と伝え、後でS君も呼び、「パンツの中を見たかったのね。お母さんやお父さんにも怪我したり、病気したりしたときだけしか見せない大切なおところだよ。だからパンツで守っているんだよ。病気やけがの時は、お医者様でも『悪いところがないか、先生が見てもいいかな?』と聞いてから見てくださるのよ。」と話した。男兄弟なので興味本位だったのかもしれないが、相手の女児がとても嫌な気持ちになったことを伝え、これから絶対誰にも言わないと約束した。女児には「困ったことを伝えて偉かった。」ことと、今度こんなことがあったら、「嫌だ。」と言って断って、また先生に教えてく

れるように約束した。保護者にも事実とその場での指導内容、今後の指導方法を伝え、担任にも今後も配慮できるように指導した。保護者は「先生が知ってくださっていることに安心しました。」と言われた。その後も、女兒に「あれから何も言われてない？」と尋ね、保護者にも確認をしてきた。S児には、約束を守れたことを認め、今後も続けて約束を守れるよう励ました。

嫌なことは「イヤ」、と自分の思いや考えを伝えること、相手の気持ちを考えること、自分と違う意見であっても受け入れること、周囲で困っている人がいないか、気づいてあげること、大人になってもその気持ちを持ち続けてほしいと願っている。

5. まとめ

幼児期における人権教育は、安心して自分らしさを出せる場を保障することであり、同時に自分と同じように自分を出してくる相手と遊びの中で、ぶつかり合い、気持ちを通わせることで、自分と違った考えを持つ友達の存在に気づき、葛藤を繰り返す中で自己主張することや我慢すること、話し合うことの大切さを感じ取っていく。また、友達の思い付きや発見、アイデアの良さに気づき、憧れて模倣したり、教えてもらったりする関わりが生まれる。時には、自分の考えを受け入れ、共感したり、自分を頼りにしたりする友達の存在にも気づく。このように幼稚園で教師や友達と一緒に生活する中で、自分が大切にされているという自尊感情を育み、お互いの存在を認め合いながら育つものだと考える。

また、生命を大切にすることを育むために、身近な動植物や自然と触れ合う体験を増やすことは、人権意識を身に付ける基礎になると考える。小さな生き物とふれあい、生命の誕生に感動し、もっと知りたい、大切に育てたい！と一生懸命調べたり、試したりして飼育する体験を通して、命の大切さを理解できるようになってきたと思う。知識として覚えるのは難しいが、自分たちで体験して

感動と共に理解できることであると感じた。

いつも「一人一人を大切に」「一人一人に応じた援助」を意識して保育してきたが、幼稚園という集団の中で、目指す子どもの姿「自分で考え、自分で行動する」の中で規範意識を育てることも大切である。「主体性」を意識するあまり、子どもの考えに流されたり、教師が援助のタイミングを逃したり、提案したりすることを遠慮してしまう場面も見られる。

子どものありのままを受け入れながらも、間違った行為を受け入れることはできない。規範意識を育てるためには、否定せざるを得ない状況もあり、教師として悩む場面も多かった。また、あこがれの存在になるべき教師も人間であるがゆえに迷ったり、間違ったりすることも多い。「先生が間違ってた。ごめんね。」と素直に謝る姿も大事な援助だと思い、失敗を繰り返しながら保育をしてきたと思う。教師の人間性が大きな環境になることを肝に銘じて、一人一人を大切に保育することが重要であると感じる。

〈引用・参考文献〉

- 加古川市立平岡南幼稚園 「幼稚園教育研究発表会 自分らしさを発揮し生き生きと遊ぶ子—友達とかかわる豊かな生活を通して—」
1996年10月
- 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」
2008年10月
- 加古川市人権施策推進課 「人権教育及び人権啓発に関する基本計画」 2010年3月
- 岡山県教育庁人権教育課 「人権教育資料集 就学前教育編」 2011年3月

謝辞

本研究の実施にあたり、資料の指導案につきまして、ご協力頂きました上郡町立上郡幼稚園の園長様、藤木先生に心より御礼申し上げます。

資料1 人権教育の視点から見た保育指導案

平成28年10月26日

保育指導案

年長組（男12名・女10名）

指導者 藤木 直子

(1) 題材

秋の山や木を作ろう

(2) 幼児の姿

運動会を経験した幼児達は友達と一緒に頑張ることや、自分達で考えて決めてできあがったことに満足し、やりきったという達成感を味わうことができた。友達に認められ、みんなに応援してもらった喜びを実感し、より成長している様子がうかがえる。運動会後でも、リズムジャンプに自信をもって取り組み、友達を誘う声や活動する姿を見てもとてもたくましく自信をもって行動している様子がわかる。以前なら途中であきらめていたことも、鬼ごっこなどで友達を必死に追いかけて、最後まで頑張ってしまうという意欲が見られた。また、遊びの中で生じるトラブルもきちんと言葉で伝え、自分達で解決して遊びを続けていく姿が見られるようになった。

集団行動のとりにくいA児は、負けても泣かずに気持ちを切り替え、最後まで頑張ってしまう意欲が見られるようになってきた。友達もそんなA児の様子がわかり、「A君『嫌だ』言わなかったな」「A君すごくがんばったな」とA児を認める言葉が聞かれた。そういう毎日の繰り返しや友達の認めでA児にも変化が見られるようになってきている。

朝夕涼しくなり、秋が訪れてくると木の葉っぱが色づき、どんぐりやめずらしい木の実を拾ってくるようになった。春に訪れた川や自分達が登った山などが季節の移り変わりで変わっていく様子が目に見えて分かり、「先生あの山いろんな色に見える」「川で石みつけたな、また、いろんな形の石みつけたいな」と身近な自然に興味を持っている。

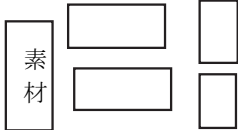
かわいいどんぐりやきれいな葉っぱ、小枝など幼稚園の周りには子どもの興味をかき立てる素材が沢山ある。また、それを使って幼児なりに色々と工夫することができる。身近な素材を使って作ることで子ども達は自然物との組み合わせやその素材ならではの特性を生かし、工夫して表現することができる。自分なりに工夫している幼児を認めることでクラス全体に広め、「Bちゃんみたいなのが作ってみたい」という思いを引き出すことができる。友達と相談しながら作ったり、やり方を教えてもらったり、また自分で考えたりやってみたりすることで自分の思いを伸び伸びと表現でき、友達と遊びを共有していけると考える。

幼児達が大好きな秋の自然物や身の回りの素材を上手く組み合わせながら自分の思いを伸び伸びと表現できるようにしていきたい。また、友達が作っている様子を見たり、工夫しているところを教えてもらったりすることで友達とのかかわりも大切にし、認めていくことで集団としての高まりを育てていきたい。身近な自然に思いを寄せて作ることで地域や自然の大切さを感じながら制作していく喜びを味わわせ丁寧に作っていくようにしていきたい。

(3) ねらいと内容

- 自然物や身近な素材を使って友達と一緒に山の木や山を作ることを楽しむ。
 - ・自然物や素材の特性を生かし、組み合わせながら木や山の様子を作る。
 - ・材料や素材を大切に扱い、友達と思いを共有しながら楽しんで作る。

(4) 展 開

時刻	環境構成	幼児の活動	教師の援助
13:10	○話が聞きやすい場所を選び集中できる環境を設定する。	○話をする。 ・どんな風景なのか ・何を作るのか	○誰もが集中して話が聞きやすいように話すタイミングや、話し方など注意して話すようにする。
13:20	○制作がしやすいように机の場所や、材料を置く場所を整えておく。 ○制作に適した道具や接着剤などを用意しておく。 木切れ・小枝・段ボール 画用紙・割りばし 	○制作をする。 ・柿の木 ・どんぐりの木 ・木の葉 ・木の実 ○木の枝やいろいろな木の実、色ついた葉っぱ、段ボールの切れ端等を使って台紙に乗せて遊んでみる。 ○友達が工夫している所を見る。 ○友達の工夫を見て、良いところを認め、自分の作品に活かしている。 ○アイデアが浮かばない時は、科学絵本を見たり、友達の様子を見たりしている。 友達の作った作品を見る。	○「みんなが登った山の木はどんな木にかわっているかな」「リスが出てきてどんぐりの木を見つけたかな」など山のイメージを膨らませながら楽しんで制作に取りかかれるように言葉かけをする。 ○どんな材料を使っていくか自分で決められるように山のイメージの写真を見せたり絵本を見せたりして制作に取りかかりやすく配慮する。 ○どんな素材で作るか、自分の思いにあった物を選んで作っていくように伝える。 ○自然物や素材の扱い方に注意し、どんな制作方法が適切であるか、考えながら制作をすすめ、教師も見守りながら、必要であれば声をかけ、十分に材料や素材を生かした制作になるように配慮する。 ○A 児が頑張っているところをしっかりと認め、具体的に分かりやすく褒めることでより意欲が継続するように配慮する。 ○工夫している幼児を認め、みんなに紹介することで意欲を持たせ、他児への刺激になるようにしていく。
13:40		○片づけをする。	○できあがった作品は机の上に並べ、みんなに見えるようにする。
13:50	○片づけがし易いように片づける入れ物をわかりやすくしておく。	○降園準備をする。	○使ったものの後始末がしやすいように材料を分かりやすく分けるように伝える。
14:00		○降園する。	○自然物等の材料を丁寧に扱っている姿を見守り、認め、全体に広める。 ○忘れ物がないか確認する。 ○明日への期待をもたせ降園させる。

(5) 評 価

自然物や身近な素材をうまく組み合わせながら思い思いの作品が出来たか。